

美容技術と造形表現

-自由表現による美容技術の可能性-

Beauty Technology and Modeling Expression

-possibility of beauty technology by free expression-

楠見小雪, 庄司実央, 上村真生, 生島あかり, 玉置真央, 本多玲華, 大森凪紗

指導教員 富田知子, 吉川奈菜子, 栗本佳典

山野美容芸術短期大学 美容総合学科 美容デザイン専攻

キーワード: 美容, 美容技術, 造形表現, 人体表現

1. 緒言

今回の発表作品は、選択授業である美容芸術演習の課題で制作したものである。

美容とは、人体を美容技術によって美しくすることである。日本では、「美容」という言葉が使われるようになったのは、明治以降である。しかし古代より人々はその効果を知っており、表現として利用してきた。古代エジプトなど王の存在を髪や化粧を用い、通常の人とは異なる容姿を作り上げ、人々に印象付けた。こうしたことは、美容技術の進展にもつながってきた。日常にない表現を行うことで、新しい表現のための技術を必要とし、それを生み出すことにつながる。今回美容芸術演習の授業では、日常の中にある美容ではなく、与えられたテーマの中で、自由な表現を行い、作品を作ることで、美容技術の新たな可能性を見つけ出す手段の一つを学んだ。

2. 方法

高さ20cmの人毛が植えられたミニマネキンを使用した。制作の手順としては、まず大きなテーマとして挙げられた「自然」を起点とし、そこから各自コンセプトを探る。コンセプトの形成には、本学で開発されたリンクブックを使用した。これはテーマから連想する言語を上げ(図1)、次にその言語から発想されるヴィジュアルを雑誌などから見

つけ出し、コラージュ技法を用いて詳細な形や質感、色などを明確にしていく(図2)。次に技術的なことは問わずデザイン構想デッサンを行い、人体を軸とした作品を描く(図3)。そこから実際に毛髪などで造形をすることができるかを考える。現実的に難しい場合は、どのような素材を使用しても良いこととされている。

使用したマネキンの髪は人毛のため自由にカラー やカール等を実際の人間と同じように施すことができる。今回は、①色の鮮やかさ②絵の具のように色の調合ができる、仕上がりの色が大よそその場で判断できる、①②の利点から酸性カラー(ヘアマニキュア)を使用した。毛髪の形状(カールやウェーブ等)は、ウェーブアイロンやその他の方法の水素結合によるもので、パーマネントウェーブは使用しなかった。

マネキンのボディーの色は、アクリルカラー系の絵の具を使用し、筆やエアブラシなどをで表現した。

付属物に関しては、発火やケガ等の危険のないものであれば制限はなしとされた。

さらに制作中、その過程は写真などに記憶し、制作までの振り返りができるようにした。

作品の完成はマネキンのみならず、その土台となるパネルを用意する。その意図は、コンセプトに

あった状況を空間として意識し、仕上げることにある。

3. 結果

授業選択者は30名、同じ「自然」をテーマに置いたが、30通りの解釈が生まれた。海に関するも、宇宙に関するもの等、大きいグループには分けられるが、その中でも視点には独自性がある。短大の最終学年の後期の授業になり、美容と美術のこれまでの獲得してきた技術や表現力をもとに、制作することができた。

4. 考察

今回の授業での制作はその過程に大きな重点が置かれた。実際に美容技術はそれぞれの項目で習得してきたが、複合的な使用によって作品を作り上げることで、より各々の技術の根本的な効果について再検討でき、かつ柔軟な使用を試みることができたと考える。今後も、美容技術がより広い表現に対応できるようにその検討を進めていきたい。

4. 謝辞

最後になりましたが今回発表の機会をお作り頂いた大学コンソーシアム八王子事務局様、ご指導頂きました先生方に感謝申し上げます。

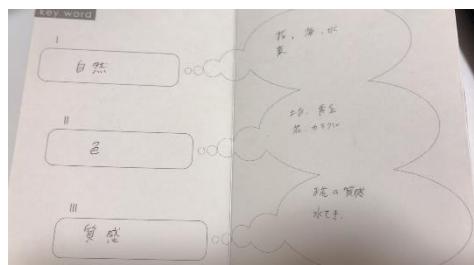


図1. リンクブック：イメージワードの整理



図2. リンクブック：イメージコレージュ



図3. イメージデッサン

リンクブック及びデッサン例：大森凪紗